

半導体研磨材販売のケメット・ジャパン

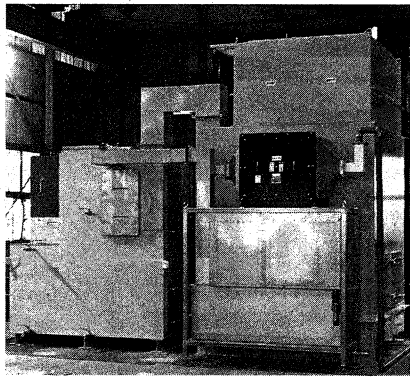
ごみ処理装置を輸出

今夏、スリランカなどに

半導体向け研磨材を販売するケメット・ジャパン(千葉県)は今夏、ごみ処理装置を南アジアへ輸出する事業を始める。処理に伴い生じる有害物質を取り除く排煙処理装置も備え、環境負荷を減らせるのが特徴。ごみ処理設備が十分に整っていない南アジアに照準を定め、環境事業を新たな収益の柱に育てる。

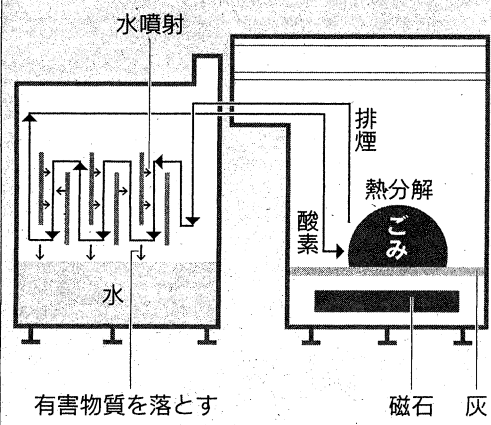
煙も浄化、環境負荷少なく

販売する製品は業務提携先のシンエイメタルテック(佐賀県神埼市)の



有害物質が外部へ流出しないのが特徴(ケメット・ジャパンが輸出する製品)

輸出するごみ処理装置のしくみ



製品を採用し、ケメット・ジャパンの子会社、鉄道車両工業(東京都八王子市)の脱臭装置を組み合わせて使う。ケメット・ジャパンとシンエイメタルテックは4月をメドに特許管理会社を設立し、インド洋の島国モルディブやスリランカに売り込む。ごみ処理装置は磁力を使って熱を生じさせるしくみ。火で燃やすよりも低い約500度でごみを熱分解するため、灰の体積を焼却炉の1割以下に当てる250分の1まで縮められる。燃料が不要で運営費を下げられるほか、ダイオキシンの発生を抑えられる特徴がある。生ごみやプラスチックなど有機物であれば何でも分解できる。

ごみ処理の過程で生じたタールなど有害物質を含む排煙は水を噴射して洗浄するため、外部に流出しない。装置内の圧力を下げるために一定の間隔でごみ処理装置内の空気を抜く必要があるが、付属の脱臭装置が金属触媒で有害物質を浄化するため、ほぼ無害の状態で大気中に放出できる。モルディブやスリランカでは処理量の限度を超えたごみが不法投棄され、環境悪化の一因になっている。今秋以降にはスリランカにごみ処理装置の組み立て工場を置いて現地で従業員を雇用する計画も立てている。滝川聡社長は「南アジアの経済発展と環境美化に貢献したい」と話す。宿泊施設や病院の敷地

内に置けば自前でごみ処理を行えるため、スリランカに設立予定の現地法人を拠点に営業をかける。初年度は10台の販売で約6億円の売り上げを見込む。南アジアで実績を積んだうえで、数年後には中東や欧州へ販売網を広げる計画だ。

ケメット・ジャパンは2002年の設立で、17年3月期の連結売上高は34億円になる見通し。スマートフォンの普及や自動運転技術の発展に伴う世界的な半導体需要の増加を受け、主力の研磨材の売り上げは堅調に推移する。投資余力のあるうちに環境事業を新たな収益の柱に育て、市場の変化に流されない経営基盤をつくりたい考えだ。このため同社は16年、脱臭装置を製造する鉄道車両工業を買収。自社内にも環境事業部を立ち上げ、海外展開を目指してきた。